

市制移行について 本格的検討は 積極的に調査研究

しののめ会
西村 繁議員

問 2期目にあたり、特に重視されている行政姿勢を伺います。

答 行政体制のあり方の調査研究は、地方分権時代に対応した5万4千人の人口に適応した将来の本村のありべき姿と住民サービスの向上を視野に入れ市制移行について本格的に検討してまいります。

問 真の滝沢ブランドの推進についての考えを伺います。

答 「真のブランド化」とは、これら後期基本計画の3つの体系で定めている施策ごとにそれぞれ効果が表れ、さらには相乗効果も生まれる中

これらを達成するためには、各主体の行動が進化していかなければならないと考え、これらの行動によってもたらされる成果が、効果的な歳入の拡大や総合計画の実現など、社会価値、地域価値の増大に結びつく要因となつて結果するものと思えます。

これらのことを迅速に進めていくためにも、産業関係者、地域自治組織の関係者、行政関係者それぞれが相互理解の下に役割分担をして協働していかなければならないと考えます。



二期目村政と住民参画 協働のあり方は 自治基本条例もからめ 市制の議論づくりへ

新志会
高橋 盛佳議員

問 ①単独市制をめざし、地域主権と住民協働を進めるために、自治基本条例は必要と思つたがどうか。

答 ①住民投票条例を村長公約として制定しましたが、今後は、さまざまな住民サービスの向上のため、自治基本条例もからめて、まちづくりを進めていく手段として市制も必要だという議論にしていきたいと考えています。

会との関わり方は、双方の意見を集約し改善に向け検討します。

問 先の第16回アジア競技大会の女子サッカーで決勝ゴールを決め、初の金メダルに貢献した本村出身の岩清水梓選手に対し、村ではどんな顕彰や支援を考えているのか。また、スィカの贈呈はどうなっているか。



▲値千金、岩清水のヘディングシュート

答 村の榮譽を著しく高め、住民に夢や希望を与えてくれた岩清水選手に対し、一月上旬に特別表彰を予定しています。また、来年6月のドイツでのW杯や平成24年のロンドンオリンピックでの活躍を期待し、応援会の開催等を検討します。なお、滝沢村のスィカを、四年前から毎年送つて応援してきましたが、今後も続けたいと思います。

その他の質問

滝沢村らしい教育の確立について

新設小学校は 十分な検討を

問 新設される小学校は対象となる地域に期待され、建設に当たっては、太陽光発電や、LED照明化など、環境に配慮した建物として将来も住民が利用できるものにする考えは。

答 「太陽光発電の設置や照明のLED化」は地球環境を考える時代に建てられるものであり、環境教育の観点からも省エネルギー設備にしていく必要があると考えています。

問 財政面で、規模拡大するものと予想してありますが、住民税については変わりありません。

その他の質問

・新設小学校の給食自校方式
・「コミュニケーションスクール」の導入

高い国保税 応益負担の軽減を 引き下げを検討

桜井 博義議員

問 国保会計の基金残高が2億5000万円になろうとしていることから、無収入でも課税される応益負担を中心に軽減すべきと考えがどうか。

答 村は2億円程度の基金は必要と考え、残高・医療費の動向を踏まえながら、一部を財源として引き下げを検討します。

問 国保加入者の広域化は、国保加入者にとつてどのように変わると認識されるのか。

答 現在、保険料の賦課・徴収・納付等を議論の段階なので、今後の動向を注視します。

問 患者一部負担の減免制度に、国保法44条の新基準が国から示されましたが、今後、どう運用しようとしているのか。



▲自分の健康は自分で

答 国の財政補填が示されたことから、23年3

問 情報公開請求で個人情報以外に公開に至らなかった点はないか。

答 法令で定められた秘密情報や事業実施途中情報、文書不存在によるものです。

問 村が補助金交付している団体への公開等をどう考えているのか。

答 補助事業者の財政状況の把握に努め、補助金等審査会の答申に基づき、公開しています。

市制移行検討は 住民に受け入れられるか 住民サービスに向け 行政体制の見直しを研究

新志会
山谷 仁議員

問 本村が「市制移行検討」という報道が、11月28日に新聞に掲載されました。新年には検討組織を設置することになったが、市制移行についてのメリット、デメリットについてはどのように考えるか。

答 市に移行することにより、現在の事務はどのように変わるのか。住民に対する市制移行に関する情報や、アンケートなど、今後どのように行っていくのか。

問 本村では、国、県からの権限委譲が進む中にあるが、地域主権の確立、住民サービスの向上を図るため、将来に向けた行政体制の調査研究をしております。22年

これまで、120年以上「村」として存在し、愛着や誇りがあると思えます。それが変わるということ、「日本一人口の多い村」というイメージがなくなる寂しさなどが

あると考えられます。